



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2024年1月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



能登半島地震で被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

復興は長期戦となりそうです。J P子どもの森づくり運動でも、
微力ながら、継続的な復興支援に取り組んでまいります。

被災地に心からの「想い」を寄せつつ、それでも活動は継続しなければなりません。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

写真は、落葉して春を待つ東北のどんぐりたちです。

春はかならずくる！能登の人たちと共に、今はそのことを信じたいと思います。

(目次)

1. 「リレーエッセイ」新年拡大版
2. 「どんぐりSDGs 劇団全国キャラバン」2023年活動レポート
3. 「全国集会&研修会2024」参加者募集案内

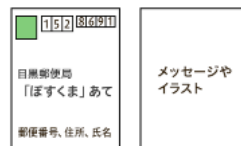
日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援
のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】



お手紙をくれたみんなに
ぼすくまからお返事が届くよ!



ぼすくまの動画はこちら



YouTube
ぼすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channe
l/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ
9A

ぼすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぼすくまと仲間たちは
日本郵便のキャラクターです。
ぼすくまは、くまのぬいぐるみの
郵便屋さんです。仲間たちも
みんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局 「ぼすくま」あて

※ぼすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願い
します。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号
まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. 「リレーエッセイ」新年拡大版

ライターの岩井光子さんには、2023年度、J P 子どもの森づくり運動の年間テーマである、持続可能な未来を支える「幼児期の環境教育（SDGs）」について、素晴らしいエッセイをお送りいただいています。年頭にあたり、今月号では拡大版をお届けします。テーマは、「社会課題を解決する活動を支える社会体制」についてです。重要なテーマです。

～SDGs達成の鍵は変革 行動を起こす若者を支援できる社会に～

ライター 岩井 光子



義援金と支援金の違い

元日から能登半島地震のニュースで、心落ち着かない年明けとなりました。被災された方の安全と1日も早い復興を心よりお祈り致します。

私も先日、現地で活動するプロボノに寄付をしましたが、皆さん、義援金と支援金の違いはご存知ですか？まず、義援金とは赤十字や自治体、テレビ局などが窓口となって集める寄付金です。被災者に公平・平等に割り当てられるため、受け取りまでにはかなりの時間を要します。

一方、支援金は被災地で救命・復旧活動を行う支援団体に寄付するものなので時間がかかりません。すぐ届きます。現地で今、復旧作業やインフラ整備に当たる人たちを迅速に支援したい場合の寄付先はこちらですので、自分の希望がどちらに該当するのか、気をつけて見てみてください。支援団体の活動内容を比較検討したい場合は、NPOを支援する中間支援団体が複数の支援先をまとめています。



Think the Earthの
緊急支援先情報

鍵はトランスフォーメーション

さて、SDGsが掲げるゴールは2030年。今年2024年ですので、達成期限まであと6年です。昨年9月に公表されたSDGsの進捗状況をまとめた「持続可能な開発に関するグローバル・レポート（GSDR）」によれば、中間発表の達成率は15%。「SDGsの期限内達成はかなり難しくなっている」と悲観的な声が上がりました。

やはり2020年以降の新型コロナウイルスによるパンデミック、ウクライナや中東の戦争、そして気候変動の加速。この3つの影響が大きいようですが、でも、あきらめるのは早いですよね。まだ6年あります。

GSDRが挽回の鍵に挙げるのは「トランスフォーメーション（変革）」。もともと2030アジェンダ（議題）の正式名称も「我々の世界を変革する」でした。SDGsの本質的な目標は世界の変革であるというメッセージを再度強調したのです。

例えば、北欧ノルウェーでは「電気自動車の普及率がたった5年で9割になった」という事例が引用されています。SDGsに取り組もうとする人々の意欲とアイデア、そしてそれらを誘導し、支える政策があれば、短期でも大きな成果が出せる一例だと思います。



Unclimatechange CC BY-NC-SA 4.0

NPOを支える新ファンド

この政策誘導は、私もSDGsの後半戦を考えると、注目すべきポイントになる気がしています。Gov tech（ガブテック＝Government Technology）と呼ばれる事業分野があります。政治とテクノロジーを掛け合わせた言葉で、行政サービスをIT化してスムーズにする取り組みなども含まれますが、政策提言の仕組みを改善するプラットフォームの構築なども含まれます。

日本では、こうした“ルールメイキング”を支援する動きは非常に少なかったのですが、2018年に当時慶應大学1年だった伊藤和真さんが政策共創プラットフォーム「PoliPoli」を立ち上げました。

PoliPoliのサイトでは、各議員が進める政策案の概要が掲載されていて、それに対してコメントしたり、逆に課題を感じているテーマの政策をリクエストしたりできるようになっています。実際に議員がPoliPoliの声を参考に行動を起こし政府予算がついた事例に「生理の貧困」問題があります。その名の通り、国民の声を迅速に議員に届け、政策を共に創る場になっています。

PoliPoliの伊藤さんは昨年9月、今度はPolicy FundというNPOファンドを設立しました。起業家や財団に呼びかけて寄付を募り、いくつかの基金を設立。社会課題解決の優れたアイデアを持つNPOなどに資金提供して実証実験を進めてもらい、政策誘導につなげる仕組みです。

背景には、日本の寄付文化の弱さがあります。日本ファンドレイジング協会が発行する寄付白書によれば、2020年の日本の個人寄付総額は1兆2126億円。GDP比で寄付大国アメリカの7分の1に留まっています。アメリカでは子どもの頃から寄付について実践的に学ぶ教育が盛んですが、日本は通年で活動内容に共感する非営利団体を支援するという習慣はあまり根づいていないかもしれません。教育環境の違いは一つの要因だと思います。

子森ネットもNPOですが、非営利団体というのは、ビジネスモデルが成り立ちにくい社会課題、つまり企業の採算性や行政の公平性という観点からは抜け落ちてしまう社会課題に取り組む人たちですので、事業収入で経営するのは難しい活動を私たちの代わりに担っています。

例えば、ホームレス支援に取り組む団体が、ホームレスから料金を受け取れないように、運営には寄付や協賛金が欠かせません。こうした収益構造を理解した上で、「自分の代わりにやってくれてありがとう」という感謝や応援の気持ちでお金を贈る人がもっと増えるといいなあと思っています。

というのも、昨年末に取材した教育系のNPOから、駆け出しの経営がすごく困窮した話を聞いたのです。彼らは大学を卒業してそのまま高校と連携し、地域と学校を結んで子どもの学びと成長を支援する意義のある活動を始めたのですが、事業が安定するまでに相当な苦勞をしたそうです。

今の若者たちはSDGsについてあらゆる教科を通して学んでいるので、大人よりずっと知識があり、問題意識も本質を突いていたりします。彼らがいざ社会課題の解決を目指してスタートアップや非営利団体での起業を考えた場合、その意欲や可能性を支援できる、柔軟性のある社会であるといいなあと思っています。

Policy Fundの設立も、SDGsの後半戦に必要とされる「変革」を起こしやすくする仕組みの一つだと思いますのでその活動の広がり注目しています。



右端がPoliPoliの伊藤さん



Policy Fund

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。

2. 「どんぐりSDGs 劇団全国キャラバン」2023年活動レポート

J P 子どもの森づくり運動では、自然・環境体験活動として、幼児期の子どもたちに、森の大切さやSDGs の大切な心を体感的に感じてもらうを目的に、お芝居と自然・環境体験講座をセットにした「どんぐりSDGs 劇団」を設立し全国キャラバンを実施しております。どんぐりの森に住む「どんぐり〜ず」が、いろいろな動物たちとの出会いや様々な体験の中で、森の大切さ、森に住むものはみんな仲間、互いに分かち合う心が大切なことに気づいていくお話しです。キャラバンは、2024年も継続されます。ご希望の方は、事務局までお問合せください。



2023年6月21日(水)
埼玉県
「あおぞらウインクルム保育園」



2023年8月6日(日)
福井県
「大野幼稚園」



2023年9月3日(日)
東京都品川区環境学習交流施設
「エコルとごし」

3. 「全国集会&研修会2024」参加者募集案内（募集人数残りわずか！）

「全国集会&研修会2024」のテーマは「非認知能力を育む“遊び”を考える」としました。J P 子どもの森づくり運動が提唱する子どもたちの自然と環境の体験活動の実際は“野遊び”です。子どもたちは、自由で自主的な“遊び”を通じて、「非認知能力」としての「生きる力」を育みます。ポストコロナの時代をみすえ、あらためて子どもの「体験」の原点である「遊び」について考え、議論したいと思います。年に一度の全国の参加園が集う貴重な機会です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。募集人数が残りわずかとなっています。ご希望の方はお申し込みをお急ぎください。詳細は、下記QRコード、及びホームページをご参照願います。

●開催概要

- 1) 開催日：2024年2月13日(火)、14日(水)
- 2) 会場：「大田区産業プラザ PIO」3F 特別会議室
(東京都大田区南蒲田1-20-20)
※京浜急行「京急蒲田」駅より徒歩約3分
- 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 4) 共催：国際校庭園庭連合日本支部
- 5) 内容

- 基調講演：東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏
- 事例発表：日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹氏 他



お申し込みフォーム



汐見先生